

# 日本共産党の竹田えつ子です こんにちはニュース 議会報告

No.217 2023年3月3週



くらしのご相談事  
いつでもお声かけ  
ください。

## 皆さんと力を合わせ、 取り組みます

### 学校給食費の無償化を



埼玉県内で初めて、坂戸市が市段階で、小中学校の学校給食費の無償化を打ち出しました。

学校給食費の無償化は大きな流れになっていきます。鴻巣市は、1月から3月まで地方創生臨時交付金を活用して学校給食費の無償化

を実施していますが、新年度は従来通りの保護者負担になります。保護者からは無償化になって本当に助か

っている大変喜ばれていました。学校給食費の無償化実現の為に、引き続き力を尽くしていきます。

### 「学校給食費の無償化、自治体の判断にゆだねる」岸田首相も認める

昨年10月7日に日本共産党の小池晃参院議員が、義務教育の無償化を定めた憲法26条に基づき、「国の責任で小中学校給食の無料化をすみやかに実施するべきだ」と要求。

これに対して岸田首相は

「保護者が負担する学校給食費を、自治体等が補助することを妨げるものではない」と述べたうえで、「無償化については、自治体において適切に判断すべきもの」と答弁しています。国会答弁が示すように、学校

給食法の「学校給食に要する経費は、保護者の負担とする」という規定を持ち出

して、給食費無償化ができない理由には使えないことは明らかです。

### 鴻巣市では約4億2000万円、国では約4800億円で無償化実現できます

約4億2000万円です。

鴻巣市での学校給食費の無償化は実現できます。新年度予算393億3000万

円の1.1%です。学校給食費の無償化こそ「未来への投資」ではないでしょうか。

少子化問題が深刻化しています。要因として教育にお金がかかりすぎるからといわれています。経済協力開発機構(OECD)の調査

によると、日本の国家予算で教育機関への公的支出割合は国内総生産(GDP)の2.8%で37か国中ワースト2となっています。OECD平均は4.1%です。せめてOECD平均並みに教育予算を増やし、約4800億円あれば国として学校給食費の無償化が実現できるのではないのでしょうか。

### 軍事費増やすより 福祉・教育に回して

岸田自公政権のもとでの新年度予算案では、アメリカの古くなった巡航ミサイル「トマホーク」の取得に2113億円、イージスシステム搭載艦建造に2208億円等軍事費だけで6兆

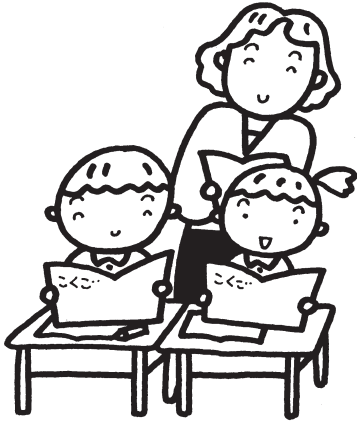
8219億円となっています。軍事費増やして「戦争の準備」より、福祉・教育予算を増やして「暮らしに安心と希望を」との声を大きくしていきましょう！



## 先生方の多忙解消、 一人ひとりの子ども に目が行き届く教育 環境を

鴻巣市では今年度12月末で、小学校27人、中学校154人の児童生徒が不登校です。

いじめや不登校問題が大きくなっている中で、教職員が月80時間を超えて残業をせざるを得ない現状や、持ち帰り仕事をしている状況などがあります。先生方がもつともっとゆとりをもって、一人ひとりの児童生徒に目が行く教育環境にする為に、世界保健機構（WHO）が提唱しているように「小人数クラス、小規模校」を実現したいと強く思います。



# 笠原小学校跡地利活用問題

## 笠原地域住民の声生かさ れず

笠原小学校は、地域の多くの皆さんが「学校をなくさないで」と声を上げ、「笠原小学校を守り育てる会」の署名4445筆寄せられました。2020年12月議会で、学校を廃校にする議案が出され、自民・公明・保守系議員の賛成多数で廃校が決まりました。2

022年4月より、鴻巣中央小学校に児童は通学しています。

学校の主人公である笠原小学校の子ども達には、廃校が決まった後に説明するなど「子ども権利条約」に則さない対応を、市教育委員会ではしていると思います。

## 笠原小学校敷地内に民地があることを、3月議会ではじめて明かす

廃校後の学校利活用について、市は2022年3月「笠原小学校跡地利活用基本計画」を作成しました。これらにもとづき今年度「笠原小学校跡地利活用募集要項等作成支援業務委託料」を計上しましたが、事業が進ま

ず3月議会で減額しました。

竹田えつ子は、政策総務常任委員会で質したところ、市街化調整区域内で既存建築物の用途変更手続きで、県との協議に時間を要しているためと答えました。他の議員と共にさらに質していくと、笠原小学校の体育館敷地に民地があることを、市は初めて明らかにしました。79㎡の土地で40人の権利者がいるとしました。市民の財産

## 市民の税金は市民の為に

議員の大事な役割は市民の声をまっすぐ届けると共に、市政のチエック役です。「市民の貴重な税金を使っての行政ですから、全てを明らかにする」は竹田えつ子の姿勢です。

合わせて議員は、市民の皆さんから報酬を受けて活動をしていきます。議会報告するのは議員の務めです。これからもこうした姿勢を貫いて頑張っていきます。